

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

議題 札幌市子どもの貧困対策計画の改定について

### (1) 質問及び市担当部からの回答

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
1	齋藤 優希	前回 H28 の実態調査を受けて、平成 30 年度から令和 4 年度の子どもの貧困対策計画が進められてきたのだと思いますが、当時の実態調査で浮き彫りになった問題に対して、現在どこまでの改善が進められてきたのでしょうか。	<p>計画の施策ごとに進捗状況を把握するための指標のうち、一部の指標は計画当初より数値が上昇し目標値に届いているものもあります。しかし、数値が低下したり、毎年変動する指標もあります。</p> <p>(参考) 札幌市公式ホームページ 「札幌市子どもの貧困対策計画」の評価・検証 <a href="https://www.city.sapporo.jp/kodomo/jisedai/kosodatekaigi/jidofukushi/hinkon.html">https://www.city.sapporo.jp/kodomo/jisedai/kosodatekaigi/jidofukushi/hinkon.html</a></p>	子) 子ども育成部
2	白取 信子	「2 計画の進め方」の図解にある、「子どもと関わる様々な関係者」とはどのような方たちを想定していますか。	学校・スクールソーシャルワーカー、家庭児童相談室、若者支援施設等を想定しています。今後も様々な支援機関や団体等との連携を一層強化し、子どもの貧困に関わる施策を着実に進めていきます。	子) 子ども育成部
3	土肥 勇	相対的貧困率の計算で、国で算出できて、札幌市で出来ていないとすればその理由をお知らせ下さい。できることならば、全国との対策進捗状況との差などを知ることが重要と考えました。	国の子どもの貧困率は、個別訪問による国民生活基礎調査で聞き取った、世帯収入から税金や社会保険料等を除いた可処分所得を基に算出しています。一方で、札幌市では可処分所得を正確に把握することは難しいことから、実際には算出する	子) 子ども育成部

令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
			ことが困難です。全国においても、国と同じ条件で貧困率を算出している自治体はなく、地域比較も難しい状況です。	
4	豊田 直美	札幌市の子育て支援は多方面に渡り多数ありますが、まだまだ縦割り部署が多く、支援を求めた方に対して、総合的な聞取りができていないケースがあります。せっかくある資源が活かされないのは残念です。子どもコーディネーターがその役割を担うのでしょうか？そうでないのなら家庭を総合的にコーディネートする担当者が必要と思います。	子どもコーディネーターは、地域にある子どもの居場所への巡回活動を行う中で、養育環境面、子どもの学習面や発達面など多岐にわたる相談を受け、地域関係機関と連携しながら、それぞれの家庭の状況に応じた支援につなげています。このため、困難を抱える子どもを必要な資源につなげる役割の一部を担っています。	子) 子ども育成部
5	山中 里美	学校の保健室はどの位置づけをされ、多問題についての情報共有はどのようにすすめられているのか知りたい。貧困対策を考えるにあたり、今や最前線で支援されているように思うため。	保健室については計画上の位置づけはありませんが、学校における計画上の事業として、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用による相談支援の推進が位置付けられています。 実際には、保健室の養護教諭が困難を抱える子どもを把握するケースもあり、その場合は、状況に応じて養護教諭がスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーへ報告するなど、学校全体で困難を抱える児童生徒に対する支援を行っています。	子) 子ども育成部

### 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
6	吉田 賢一	<p>基本施策ごとに成果指標を設定していたと思われませんが、いずれも平成 28 年を現状値として平成 34 年度（令和 4 年度）の目標値を設定しています。</p> <p>改定スケジュールでは令和 3 年度に実態調査を実施するとなっていますが、数値変化の傾向を確認出来ているのか？また（平成 34 年度（令和 4 年度）の目標達成度合いが）次期計画にどのように反映されるのかお聞きします。</p>	<p>一部の指標は計画当初より数値が上昇し目標値に届いているものもあります。しかし、数値が低下したり、毎年変動する指標もあるため、これら現計画の指標の達成状況を踏まえ、次期計画を策定していきます。</p>	子) 子ども育成部

#### (2) 意見

通し 番号	委員名	内容
1	大場 信一	<p>国が示した「子供の貧困対策に関する大綱」と期間のズレがありますが、指標の整合性についても検討が望ましいと思います。</p>
2	川俣 智路	<p>今回は座談会やヒアリングが難しい状況にあるかもしれませんが、仮に今回も同様の意見収集がある場合には、積極的にオンラインを活用していくことが望ましいと思います。</p>

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	委員名	内容
3	齋藤 優希	<p>上記質問（通し番号1）に関して、未達成の項目があれば次回の計画ではどのようにすれば達成できるのか対策する必要があります。また、今期の場合は新型コロナウイルスによる影響も出て来るため、子どもの実態調査について例年と違う設問も必要ではないかと感じます。</p> <p>また素朴な疑問なのですが、税金等から各家庭の所得状況を把握し、子育てをする環境としては明らかに難しい家庭を割り出して、直接行政側から相談や支援を行うことはできないのでしょうか。（対象世帯が情報取得に乏しい可能性が高いため。）</p> <p>⇒担当部（子）子ども育成部）からの補足説明</p> <p>子どもの実態調査に当たっては、調査内容に新型コロナウイルス感染症の影響に関する事項も含めることを検討しています。</p> <p>また、税に関する情報から個別の家庭の所得状況を把握し行政側から相談や支援を行うことは、個人情報の取扱いの観点から困難があると考えています。</p>
4	齋藤 優希	<p>住んでいる地域や関わりのある子どもが多くないことが原因だと思いますが、身近に今日の食べるものにも困る貧困層の家庭がおらず、メディアから得られる情報で知っているという現状です。</p> <p>しかしながら札幌市内にもそのような家庭があるのが現実なのだと思います。直接的な支援（子ども食堂やフードバンクに携わる方など）をされている方々から、どこに財源や人員を充てるべきかという現場の声を、子どもの貧困対策計画に反映していきたいと感じています。</p>

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	委員名	内容
5	白取 信子	<p>子どもの貧困については、コロナ禍で、その割合が想定外に増えたり、ますます、現状が見えづらくなったりしている部分があるのではないかと感じている。今後、新型コロナの感染状況がどうなるかは不透明だが、そうした社会情勢を想定した計画の策定も必要になるのではないかと思う。</p> <p>また、そもそも、貧困状況の子ども自身も保護者も、「貧困という認識がない」という人たちもいるということも聞く。こうした「見えない人たち」にどう自治体に対応していくのかも、考える必要があるのではないかと思う。</p> <p>また、全体的に、SNS やインターネットを利用した対策も増やしていくべきだと思う。</p>
6	土肥 勇	<p>家庭での貧困は、それぞれの家庭の事情によるため家族全体の対策となりますが、家庭以外の教育の場(学校など)、放課後の時間などは、家庭の事情によらない他の子ども達との平等さに重きを置くのが重要と思います。もう取り組まれていることとは思いますが、学校で子どもが引け目を感じないよう学校現場からの意見も多く取り組まれてこれからも対策を進めていただくよう希望します。</p>
7	豊田 直美	<p>「子どものくらし支援担当課」とは、子どもコーディネーターが配属されている部署と思いますが、各区に1名の配置が最低必要と思います。また、認知度が低く広報の必要を感じます。</p>

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	委員名	内容
8	林 亜紀子	<p>資料1の4「子ども・子育て会議における審議の進め方（案）」に、子どもの貧困対策計画の改定については児童福祉部会で年3～4回審議し結果を子ども・子育て会議に報告とあります。児童福祉部会で審議されたことを都度素早く子ども・子育て会議を開催しお伝えいただければと思います。子どもの貧困は、社会のあらゆる分野で考えていくことが有効だと思います。例えば、介護や見守りの必要な家族の支援を子どもが行っていて子ども自身の学習や遊びなど本来子どもとして過ごせる時間が失われている、子どもの権利が重大に侵害されている場合がありますが、その助けを誰に求めてよいのか、助けを求めることなのか子ども自身は認識できずにいることなどが昨今明らかになってきています。高齢者福祉と子ども、障害者福祉と子どもなどをつなげるためには、子どもの周囲の大人が素早く気づいて子どもの尊厳を守りながら支えることが必要となります。そのネットワーク構築のために、子ども・子育て会議のような場が活用されると良いと思います。</p>
9	箭原 恭子	<p>子どものくらし支援担当課は昨年新設された課ですね。部局間の連携を切望されての組織されたものであるとの認識でおりますが、これまでの動きがわかるような、またどのような施策がだされたのかなど、お知らせ願いたい。今後の動き、施策、どのような方向に向かうつもりなのか等、お示しいただけるとありがたい。</p> <p>⇒担当部（子）子ども育成部）からの補足説明</p> <p>子どものくらし支援担当課は、平成30年4月に新設し、子どもの貧困対策や子どもの居場所づくりに関する業務を行っています。</p> <p>具体的には、これまで、子どものくらし支援コーディネート事業を平成30年8月に開始した後、段階的に拡充し令和3年4月から対象地区を市内全地区に拡大しました。</p> <p>子ども食堂等子どもの居場所づくり活動を行う団体への補助を令和2年8月から実施しています。</p> <p>今後、子どもの貧困対策計画の改定に当たり、必要な施策を検討していきます。</p>

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	委員名	内容
10	山中 里美	<p>教育機関の中に属する学校の保健室という子どもたちにとっても居場所の一つとなる現場において、養護教諭の先生は、からだの問題のみならず、心の問題が多岐にわたっていると話されていました。安心して子どもたちの本音を耳にすることのこです。コロナ禍も含め、家庭や子ども社会の中で、孤育ち（孤立している子どもたち）が多く、物的・質的な貧困によって自己肯定感が失われてしまっている子どもたちと真っ向からサポートして下さっている実状。セーフティーネットの一つとして「保健室の養護教諭」という存在は身近で、福祉制度では救えない貧困対策のカギとなっているように思う。</p>
11	山中 里美	<p>毎朝、我が子たち含め、地域の子どもたちと登校見守りしています。様々な子どもたちに出会い、「おはよう！」をかわすことだけでも、つながりになっていて、人に対して壁を作らず互いを知りあうことが子どもたちの生きる学びとなりうるのではないかと思っている。</p> <p>モノやハコを与えることが貧困支援ではなく、様々な価値観をもつ人と交わることが孤独を少しでも軽減できることもあり大切だと思う。</p> <p>お金があるとかないではなく、親から相手にされない子どもや、やる気に乏しい子どもたちが増えている中、大人ができることは、身近にたくさんあるのではないか。私自身も、子どもたちに声をかけてもらったり、挨拶に救われている。子どもたちとの登校における対話の機会も居場所の一つとなれば・・・</p>
12	吉田 賢一	<p>現計画時（2015年の数値）の厚労省調査の子どもの貧困率は13.9%、2020年7月の子どもの貧困率は13.5%、依然として7人に1人が貧困状態にあるという結果です。2015年よりも0.4ポイント改善していますが、全国数値であり札幌の状況は判りません。またコロナ禍の影響で現状は悪化している可能性があります。きめ細かな分析をお願いしたいと思います。</p>

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### 報告

#### 1 検証報告の提言に関する外部評価の進め方について

##### (1) 質問及び市担当部からの回答

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
1	齋藤 優希	外部評価のワーキンググループ委員選定にあたり、検証に携わっていない方や札幌市外の専門家などにも就任することも非常に有効だと思いますが、実際に選定された方々の中で、子どもの貧困と現場レベルで携わっている方はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。（対象者からの相談を受けていたり、貧困家庭になる可能性の高い特定妊婦やひとり親家庭から現場の声を直接拾い上げる立場におられる方）	現場レベルで、直接支援を必要とする方と携わってはいませんが、福祉、保健、法律等の専門家として、幅広く経験と知識を有している方々にご就任いただきました。	子) 子ども育成部
2	林 亜紀子	「令和元年6月死亡事例に係る検証報告書」を読むと、過去の事例に市としてどう学んできたのが強く問われていると感じます。資料2で、検証報告の提言に関する外部評価の進め方が報告されていますが、自己評価はどのように進められるのか、がより大切だと感じます。 5月開催予定の虐待防止対策推進本部会議にそれが示されるとのことですが、その内容は9月には子ども・子育て会議へ報告されるということでしょうか。	検証報告書の提言を受けての札幌市の取組状況のほか、自己評価、外部評価についても、子ども・子育て会議にてご報告いたします。	子) 子ども育成部

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### (2) 意見

通し 番号	委員名	内容
1	梶井 祥子	必要な評価が綿密に計画されていると感じる。
2	川俣 智路	資料2に関わる検証報告の提言に関する外部評価の進め方については、特に研修の部分が重要ではないかと思えますので、その点について特に検証していただくことを希望します。
3	下村 勝子	9月の児童福祉部会からの評価報告を期待しています。
4	豊田 直美	検証をしっかりと行うことで、改善点や継続することなどが明確になることを期待します。評価ワーキンググループに医師の参加を希望します。
5	箭原 恭子	外部評価の評価報告が決定した段階で「評価報告」とそれに伴う「市の対策」の対でどちらかかに公示されるのですよね。 要対協 児相 家児相 ネットワークの図は書いてあるが、問題を抱えた親子はどこに相談してどのように救われていくのか、相談したあとどこにつながっていくのかがよく分かりません。分かり易く具体的に表してほしい。

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### 2 第3次札幌市児童相談体制強化プランの策定について

#### (1) 質問及び市担当部からの回答

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
1	白取 信子	<p>「第3次札幌市児童相談体制強化プラン」の第4章の具体的取組のなかの「子どもの権利擁護」についてです。</p> <p>資料8の市民アンケート調査のP21で、子どもの権利の認知度について、「聞いたことがあり内容もある程度知っている」という回答がわずか13%しかないなかで、まず、前提として、子どもに「子どもの権利」の周知についてはどんな計画があるか。</p>	<p>「子どもの権利についての認知度」は第4次子ども未来プラン基本目標1により、成果指標を設定しております。</p> <p>基本施策1「子どもの権利を大切にする意識の向上」に掲げたとおり、子ども自身が子どもの権利の理解向上を図るため、子どもの年齢や子どもとの関わりに応じた広報等を、様々な働きかけを交え、地域や学校などとも連携しながら、普及・啓発の取組を行っていくこととしております。</p>	子) 子ども育成部
2	白取 信子	<p>「第3次札幌市児童相談体制強化プラン」の第5章の第二児童相談所設置については、職員人員についての計画案は出ていますか。</p>	<p>相談件数等の推移や各取組の結果などを勘案のうえ、関係部局と協議しているところであり、配置計画案は出ておりません。</p>	子) 児童相談所

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### (2) 意見

通し 番号	委員名	内容
1	下村 勝子	<p>毎年、5月から区家庭児童相談室の先生方と学校訪問に同行いたします。</p> <p>P13の受理件数のおり、養護相談が約65%をしめます。一人親家庭、生活保護家庭の割合が多くなって居ります。又、不登校の数も多く、学校・家児相から依頼があると、家庭訪問し、関係機関と連携をとって情報共有をしております。</p> <p>家児相の先生方が増える事によって、関わる件数も増えるのではないかと思います。</p>
2	白取 信子	<p>第二児童相談所設置については、施設の充実だけでなく、職員の人員数、どんな人を配置するかが最も重要になってくると思う。手厚い体制にしてほしい。</p>
3	土肥 勇	<p>素晴らしいと思います。今後とも十分に人材を確保して進めていただくよう宜しくお願いいたします。</p>

### 3 各部会の議決状況報告

#### (1) 質問及び市担当部からの回答

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
1	豊田 直美	<p>認可確認の審査基準に札幌市として独自の以下の基準を希望します。</p>	<p>一点目のご指摘について、浸水想定区域、土砂災害警戒区域等では、北海道や札幌市が災害のおそれのある区域内の居住者への周知、警戒避難体</p>	<p>子) 子育て支援部</p>

令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
		<p>①浸水想定区域、災害警戒区域への設置禁止 北海道胆振東部地震後に改めて災害区域の策定があり、子どもの命を守るためにも、その区域への新設は禁止すべきである。既存の施設は移転が必要と考える。</p> <p>②保育施設の幼稚園や小学校は 50 デシベル以下が望ましいとなっているが、厚労省管轄の保育施設は基準がない。幹線道路や高架下など 70 デシベル程度になり、子どもへの影響は計り知れない。保育園は子どもが長時間過ごす場所なので、言語の発達段階にある子どもたちへの影響を考慮して基準を設置し、札幌市として子どもの育ちを保障してほしい。希望は 35～40 デシベル以下です。</p>	<p>制の整備などの対策を推進しています。土砂災害特別区域では建築の規制などの対応をしておりますが、その他の区域では生活することを前提に必要な対策を求めているものであることから、認可基準等で規制を上乗せすることについては慎重な検討が必要と認識しています。</p> <p>二点目のご指摘について、現状においては既にご承知のとおり、国や札幌市における音量の規制は定められておりません。本件も前述の区域の件と同様に、認可基準等で規制を創設することについて慎重な検討が必要と認識していることから、例えば委員ご指摘の幹線道路や高架下等の場所に保育所を創設する場合においては、札幌市から整備事業者に対し、防音壁の設置等の適切な対応を求めて実施いただいているところです。</p> <p>札幌市の認可基準については、国の基準に準拠した形で制定しているところですが、今後については国の動向や札幌市の状況等を踏まえて、適宜見直しの検討を行ってまいります。</p>	

(2) 意見  
なし

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

情報提供

### 1 令和3年度子ども・子育て関連の事業概要説明

#### (1) 質問及び市担当部からの回答

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
1	下村 勝子	<p>毎年、子育てサロン事業において運営費の補助を頂いており感謝して居ります。</p> <p>家庭訪問型子育て支援事業は依頼があった家庭を訪問する事でしょうか。専門家（子育て支援係、保健師さん等）のみならず、地域のボランティアにも支援を拡充されるのでしょうか。</p>	<p>お見込みのとおり、依頼のあった家庭を訪問いたします。</p> <p>また当事業で訪問を行うのは専門家（子育て支援係、保健師等）ではなく、地域のボランティア等を予定しています。</p>	子) 子育て支援部
2	林 亜紀子	<p>児童会館整備について、平成26年12月の札幌市市有建築物の配置基本方針をベースに学校改築に合わせて児童会館の老築化の更新も合築することで進めていくものと認識しております。</p> <p>今後、学校の少人数学級化が進むことに伴い、学校と児童会館の合築のさいに必要な面積を増やすなど、見直しが必要なのではないかと考えられますが、見直しの計画はありますでしょうか。感染症対策の点からも、学校も児童会館も、面積を十分に確保して、子どもをゆったりと大切に育むべきと考えます。</p>	<p>児童会館の小学校への複合化に当たっては、札幌市児童福祉法施行条例の規定を踏まえ、必要な面積を確保することを基本的な考え方として、具体の検討を行っているところです。</p> <p>引き続き、国の動向なども注視しながら、児童の放課後の居場所がより良い環境となるよう、努めてまいります。</p>	子) 子ども育成部

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### (2) 意見

通し 番号	委員名	内容
1	川俣 智路	<p>G I G Aスクール構想推進関連は、感染症対策はもちろんのこと、教育の質の向上にも直結することだと思います。新型コロナウイルス感染症の影響の中で、特に充実してほしいと感じた項目の中に、オンラインでの学習サポートが挙げられていることから、緊急の課題かと思っておりますので、引き続いてサポーターの配置、ソフトウェアの導入、そして教員のための研修などを検討していただくことが重要かと思っております。</p>
2	齋藤 優希	<p>子ども子育て関連の事業概要につきまして、非常に素晴らしい改革が多く、実施を期待しています。</p> <p>デジタル化の推進に関して。国でも大きく取り上げられ始めた内容として提言があるのですが、デジタル化は感染症対策に関するだけでなく、定期予防接種の予診票や定期健診の間診票など、札幌市では時代にそぐわず全て手書きで、何度も同じ内容を記入すべき箇所があり、毎度非常に煩わしさを感じています。（病院や保健センターの確認する側も人員と時間を費やしているはずです。）</p> <p>子育てのしやすい環境を目指す上で、些細なことかもしれませんが、このような日々の労力の積み重ねも子育て世帯にとって不満となっています。そのような不便さをデジタル化で解決するために予算を充てることも計画していただけないでしょうか。</p>
3	土肥 勇	<p>素晴らしい計画と思います。更に発展させるには、北欧で行われているような幼少から青年期まで見守る制度を創設したら良いかとも思いますが、人的資源がまだ限られており、将来的にそのようになるようどんどん進めて頂きたいと思います。</p>

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	委員名	内容
4	林 亜紀子	<p>児童会館は、児童クラブの登録児童だけで溢れている状況なので、本来自由に入出入りできるはずの一般来館の児童・生徒の居場所が確保されておらず、足の向きにくい場所になってしまっています。児童クラブの登録児童には必要な遊びと生活の場である専用区画が当然しっかりと確保されなければなりませんし、一般来館の子どもたちにとっても、混雑で締め出されたと感じさせることのない、行きたいときにいつでも入ることのできる遊び場であることが必要で、そのための十分な広さを確保するよう、ぜひお願いいたします。</p>
5	正岡 経子	<p>子育てサロン事業 家庭訪問型子育て支援事業が新たに拡充と記載されています。 子育て支援においても対象者が来る、こちらから行くケアの充実は生まれた命をつなげるために非常に重要な取り組みと考えます。</p>
6	箭原 恭子	<p>G I G Aスクール構想で1人1台タブレットが割り当てられたとしても、個人宅の通信環境にお金が出ないのであれば、通信環境が整わない子どもには使うことができません。「安全なフリースポット」を設けるなど、そうした子どもたちにも使用可能となるような方策を考えていく必要があると考えます。</p>
7	藪 淳一	<p>令和3年度の事業で、増加する保育ニーズに対応するため、施設整備による定員増を1,801人としています。 その一方で、2021年4月1日現在、定員割れをしている保育所等施設は63%を超えています。施設整備よりも保育人材の確保に予算を集中すべき時期に来ているように思われます。</p>
8	吉田 賢一	<p>いわゆる三期期間（夏休み・冬休み・春休み）の子どもの居場所づくりの拡充や食の支援などの施策の早期展開を求めます。</p>

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### 2 令和2年度札幌市子ども・子育てに関するアンケート調査の実施報告

#### (1) 質問及び市担当部からの回答

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
1	安藤 慎也	<p>P19、子どもに関する意識調査で、なぜ・どんな時に「そう思う」のかを知りたいと思いますが、アンケートとまでいかずとも学校を通じて子どもに意識調査のようなことをしてもらうことは可能でしょうか？</p> <p>また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という回答が多いことについて、前述と同じように理由を深掘りすることで改善策が見えてくるのではないかと考えます。</p>	<p>本調査は、子どもの意識を広く調査するため、無作為抽出の方法で調査を行っており、学校での意識調査等の実施は予定しておりません。</p> <p>自己肯定感は、問5の設問中では、「自分は人から必要とされている」と相関関係があるものと分析しております。</p>	子) 子ども育成部
2	白取 信子	<p>市民アンケート調査のなかで、新型コロナの影響②について、「子育てに関する情報が得にくくなった」との回答が約3割、新型コロナの影響④について、6割が「手当や給付金など金銭面での支援」が必要と回答している。こうした現状に対する支援については、どう考えるか。</p>	<p>(子育てに関する情報について)</p> <p>札幌市では、外出自粛期間中の妊娠・出産・育児に関する不安が少しでも軽減できるよう、さっぽろ子育てアプリやさっぽろ子育て情報サイトにおいて、応援メッセージや育児情報等を配信しています。また、まちなかキッズサロンおおどりんこでオンライン子育てサロンを開催するなど、相談や交流の場の確保に努めています。</p> <p>今後も、妊娠・出産・子育て中の方に寄り添った積極的な情報発信に努めてまいります。</p>	子) 子ども育成部 子) 子育て支援部

令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
			<p>(手当・給付金について)</p> <p>本市では令和2年度は子育て世帯臨時特別給付金、ひとり親世帯臨時特別給付金（再支給含む）、札幌市家計急変ひとり親世帯臨時特別支援金を実施し、令和3年度は低所得の子育て世帯生活支援特別給付金を実施しているところです。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響による子育て世帯の現下の状況につきましては、全国的な課題でありますことから、支援に必要な財源措置も含め、国に対して引き続き要望を行うとともに、必要な支援につきまして、引き続き検討してまいります。</p> <p>(就労・住宅確保支援について)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、非正規雇用の割合が高く影響を大きく受けるひとり親家庭に対して、安定就労を通じた中長期的な自立支援や住居確保支援について、国より政策パッケージが打ち出されました。</p> <p>本政策パッケージは、資格取得のために養成機関に通学する場合の生活費相当を支給する「高等職業訓練促進給付金」の要件緩和や、住居の借り上げに必要な資金の貸付を行う新規事業が含ま</p>	

令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
			れており、本市でも関係機関と連携し、適切な事業の実施に努めてまいります。	
3	山中 里美	P16「影響は受けていない」との回答は、その理由や内容等記載があったら教えてほしい。	新型コロナウイルス感染症のお子さんの状況について、「影響は受けていない」と回答した世帯に対して、その理由を聞く設問は設けておりませんが、「その他」を選択した方や欄外の記載内容には「妊娠中だった」「生まれたばかりなので何とも言えない」が含まれていました。	子) 子ども育成部
4	山中 里美	P20 近所や地域とのつながりについて「わからない」とは、人とのつながり自体をそう回答しているのだろうか？	「わからない」と回答した方は18.6%となっており、これらの多くは、「近所や地域のつながりの必要性がわからない」と考えているものと分析しております。	子) 子ども育成部

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### (2) 意見

通し 番号	委員名	内容
1	大場 信一	子育て不安には子ども自身がかかわることと養育者自身にかかわることがあると思います。対応策はどちらも欠けてはいけないと思うので、調査結果が反映される「見える化」を進めてほしい。
2	梶井 祥子	回答者である母親の属性については、「正規雇用」、「非正規雇用」、「現在無職」の3類型に分けてクロス分析する視点も重要と思われる。 (過去の他機関調査データでは、子育ての負担感は「現在無職」の層で高い傾向があったり、仕事との両立は「非正規雇用」のほうで満足感が低いという結果もある。そのような点を精査することで、より具体的で有効な対策を考えることができるのではないかと。) )
3	下村 勝子	私共の年代に比べ、現在就労している母親(62.3%)が多いのには驚かされます。 そのせいか子育てサロン(赤ちゃんってすごい)に、育児休業を取得した父親と母親と一緒に双子ちゃんを連れて訪問された事があります。家事や育児の担い手も父母ともにか 64.4%と多くなっている事は望ましい事だと思います。
4	白取 信子	市民アンケート調査については、世帯ごとの調査ということだが、回答者が約9割母親ということで、結局、回答結果も、母親が感じている実情が浮き彫りになる傾向かと思う。父親と母親の子育てに対する考え方の乖離が、現状、問題になることも多いので、父親と母親に回答してもらうような調査の仕方も必要なのではないかとと思う。

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

通し 番号	委員名	内容
5	正岡 経子	札幌市子ども・子育てに関するアンケート調査の結果を拝見しました。子育ての孤立を防ぐために、気軽に相談できるサポート者の存在は重要なのだと思います。一方で、今後充実してほしい子育て支援などでは「子育てで困った時の相談窓口の整備」は、他の選択肢と比べて多くありません。相談窓口は充足しているとみるのか、必要としているのは「窓口」ではないとも受け取れます。
6	山中 里美	P16「影響は受けていない」と回答している家庭の多さに驚きを感じた。共働き家庭でもそうでなくても、影響は大きかったと思うが、子どもの状況をそれほど気にされていない家庭が多いのかと感じとらえてしまう。
7	山中 里美	<p>P20「わからない」との回答には情報が乏しいのではないかと心配だ。</p> <p>「つながりはあまりないが特に必要もない」との回答と合わせると今後の課題だと認識しなければならないのではないかと。「つながりはある」39.0%より重く受け止めなければならない。日常的な人とのつながり（交流）は、困りごとを我が事として助け合えることにつながると感じている。</p>

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### 3 札幌市若年期の女性を対象とした支援に関する実態調査の実施報告

#### (1) 質問及び市担当部からの回答

通し 番号	質問者	質問内容	回答	担当部
1	藤原 里佐	調査協力者の概要の高校生の学年比率は、円グラフと表の数値が一致していない理由があれば教えてください。(7ページ)	ご指摘のとおり、報告書(概要版)7ページの円グラフと表の数値に誤りがありました。訂正して、お詫びいたします。訂正後の報告書(概要版)は、再度送付させていただきます。	子) 子ども育成部
2	藤原 里佐	同調査の対象者を、高等支援学校徒と、公立高等学校に分けていますが、高等支援学校の生徒に特有な課題や困難があるという仮説に基づいているのであれば、それを教えてください。	調査の実施に当たっては、高等支援学校の生徒に特有な課題があるという明確な仮説を持って実施したわけではなく、高等学校と傾向が異なるようであれば、結果を分けて分析することとしておりました。	子) 子ども育成部
3	藤原 里佐	同調査の方法として、最も回収率を期待できると思われる、二次元コード付き調査依頼チラシを高等学校を通じて配付し、WEBで回答を受けるといふ、公立高等学校の回収率が4、2%です。低回収率の要因があれば教えてください。	低回収率の要因としては、質問内容が非常にデリケートな内容であったこと、回答したことによるインセンティブがなかったことなどが考えられます。	子) 子ども育成部

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

### (2) 意見

通し 番号	委員名	内容
1	梶井 祥子	札幌市の男女平等のための施策を進めるうえでも重要な基礎データであると感じる。官民を問わず、女性支援に取り組む関係諸機関で共有してほしい。
2	白取 信子	今後、こういった支援が必要なのかを考えるヒントになる部分がたくさんあると思う。この報告書を十分に活用したうえで、今後の施策の方向性を決めてほしいと思う。
3	土肥 勇	問題点の概要が分かりやすく良い調査と思いました。問題部分に今後とも重点的に対策を行って頂きたいとします。
4	豊田 直美	報告書を読み改めて家庭単位での支援の必要を実感しました。さらに、子どもの成長の早い段階での支援がどうすれば可能になるかを考えさせられました。子どもを虐待してしまった当事者の成育歴などを聞くことに踏み込めると、虐待を起こさせないことにつながるのではと思います。子どもが見相から家族のもとへ戻ってからの継続した支援の構築を求めます。
5	豊田 直美	「具体的で正しい性教育を学校で行うべき」との意見はまさしくその通りだと思います。小学校低学年から年代に合わせた性教育が必要だと思います。その際に相談できる方法やSOSを出す場所などを知らせることが重要で、学校の先生ではなく外部の支援団体が適していると考えます。性教育の回数が増えると相談機関の認知度も高まっていくと思います。

## 令和3年度第1回札幌市子ども・子育て会議 委員からの意見・質問

その他

(1) 質問及び市担当部からの回答

なし

(2) 意見

通し 番号	委員名	内容
1	梶井 祥子	今後、ヤングケアラーについての実態調査も必要であると感じている。 ⇒市担当部（子）子ども育成部）からの補足説明 ヤングケアラーの実態調査については、国の動向を踏まえ、実施に向けて、現在検討しているところです。